



小学生とともに町旗を降納する中田町長(右)と砂田議長

さようなら
ありがとう
三原町

主な内容

- ・三原町閉町式典
- ・三原町成人式、消防初出式



式典のオープニングでだんじり唄を披露する市小学校5・6年生

(ホームページ) <http://www.town.mihara.hyogo.jp/>



中田町長の式辞

三原町を閉じるにあたって

緑と太陽につつまれた我がふるさと「三原町」も誕生からはや半世紀が過ぎました。その間、住民の英知と情熱、努力の結集のもと、幾多の災禍を乗り越え、美田を引継ぎ、豊かな風土、多様な文化を守り育みながら日々発展を遂げてまいりました。

思えば、我が三原町は、昭和三十年四月三日に榎列、八木、市、神代の四か村が合併して町政を施行。その二年後の昭和三十三年、倭文、志知の一部を含めて、現在の三原町が誕生いたしました。

三原町誕生の当時、国は敗戦の苦しみから力強く復興を遂げ、都会では、重厚長大型の好景気が続き「もはや戦後ではない」とまで言われ、地方から多くの労働力が都会へ流れた時代でもありました。困難な合併を遂げられた初代高見久平町長から私まで、六代の町長が町民の負託のもと町政を担当してまいりま

した。

その間、高度経済成長や科学技術の発展、情報化など我が国社会の進展と合わせて、町も飛躍的に発展し、私達の暮らしも大きく様変わりをしてまいりました。町政においても、激動を続ける社会情勢の中で、社会福祉、教育文化、産業復興、経済発展へと、年々確かな前進を続け、日々着実に未来を求め、たくましく躍進をつづけ、輝かしい歴史を刻んできました。

平成十三年からは、向こう十カ年の計画として、第四次三原町総合計画を策定、「雄途三原・恵みの大地と生命輝くやさしいまち」を将来像に、各施策を推進している所であります。

しかしながら、本町をめぐる社会・経済情勢は急速な勢いで大きく変化しており、あらゆる分野において歴史的な転換期を迎えております。

少子高齢化をはじめとする社

会構造の変化により、行政に対する住民ニーズの多様化・高度化が進み、これからの時代を先取りした町づくりに取り組まなければ、生き残れない時代になってまいりました。

二十一世紀は地方分権の時代といわれております。この試練を乗り越え、これからの三原町の未来を切り開くため、合併により、行政の広域化を進めることが行財政基盤の強化や効率化・高度化を図り、ひいては明日の地域発展につながるものと確信いたしております。

半世紀にわたって躍進した三原町も、一月十日で閉町消滅し、新市「南あわじ市」として新しい歴史の第一歩を踏み出すこととなりました。

町が無くなりその歴史に幕が降ろされることには、一抹の寂しさを禁じ得ませんが、これまで長年にわたって培われた三原町を基礎に、皆様の英知と情熱と勇断をもって、新しい南あわじ市を作っていくたいと考えております。

最後に、共に支えあい、共に歩みし「雄途 三原町」に限りない愛慕の情を抱きつつ、この合併で我が愛する郷土「三原町」が新市の中でより一層光り輝き、未来に向け大きく飛躍するため、更なる尽力を惜しまないことを誓い式辞といたします。

三原町閉町式典を開催

昭和三十年四月、町制が施行されて以来およそ五十年。幾多の歴史重ね、発展を遂げてきた三原町は、三原郡四町の合併により一月十日でその幕を閉じることとなりました。

閉町にあたり、十一月十八日、中央公民館において、西村康稔衆議院議員、鴻池祥肇参議院議員、末松信介同議員、永田秀一県議会副議長、西垣嘉夫淡路県民局長、中道善光平取町長、山田喜代多同町議長を招き、町内からは元町議会議員、各種団体

役員の皆さんなどおよそ五百人が出席して、三原町閉町式典が行われました。

式典は、小学生によるだんじり唄で開幕。中田勝久町長の式辞、砂田泉洋議会議長の祝辞に続き、功労者表彰、中学生から老人層までの各世代を代表した六人が、三原町の思い出と南あわじ市への夢を語りました。最後には、小学生と中田町長、砂田議長により町旗が降納されました。



町政功労者表彰

永年の功績を称えて

三原町誕生以来五十一年の記念すべき節目にあたり、長年町政振興に功労のあつた個人や団体の代表五十五人に表彰状が授与されました。(順不同、敬称略)

地方自治功労

眞野方之・原 勤・入谷孝・藤江昭治・池田惠一・富本猛・野口健一郎・秦 好雄・岸本敏彦・平藤登・吉田良子・廣内邦夫・眞野輝夫・齋藤正民・本田宏・中田忠廣・仲岡啓子・古川稔・仲野享・山田逸雄・居内宏榮・榎本正・藤原末一・松本吉史

典・喜田一之・宮地恒雄・河崎与一郎・吉田鹿之助・後藤秀夫・吉見哲一・落合淳夫・喜田富雄

産業功労

児島茂男・木下正一・萩原秀夫・佐藤富夫・入谷英雄・原口育大・岸津恭正・寺内土地改良区・幡多土地改良区・神代南土地改良区

教育文化スポーツ功労

素川恒男・多田剛史・藤江保雄・増田博茂・橋田光子・十河義明・齋藤茂・河野純治・市史談会

社会福祉功労

杉本美智夫・榎本政實・前川精一・眞野和



メッセージ

さようなら・ありがとう三原町 三原町の思い出と南あわじ市への夢

三原町婦人会長

喜田 久美子 さん

昭和三十年から三原町五十年の歩みとともに生きてきました。豊かな町行政のなかで生活していた私にとって閉町は寂しいが、新南あわじ市誕生に心弾む思いで待っております。私たちが受けていた恩恵を子や孫までが受けるには、新市を担う人材が必要で、その人材を育む責任を私たちは持っています。なお一層頑張らなくてはと心新たにしています。南あわじ市が夢の持てるまちであることを願って、メッセージとします。

三原中学校生徒会長

武市 一成 君

三原町は無くなるのではなく、名前を変え、姿を変えて大きく発展しようとしているのです。南あわじ市への希望は、合併となった各町の伝統や特色を受け継いで、飛躍的なことに挑戦して発展させていってほしい。誰もが住み良い街であってほしい。僕らが大人になってからも自慢できるすばらしい南あわじ市となつてほしい。ふるさと三原町の誇りと南あわじ市への希望を胸に自分の道を一生懸命歩んでいきたい。

三原町区長会長

松本 吉史 さん

昭和三十年は高校一年。小さい頃は、隣村へ行ったら泣かさる時代であった。村が合併して、ようやく隣の人も仲良くすることができた。以来、三原町の人が仲良くなり、大きなまち三原町となつて白亜の殿堂三原中学校が建ちました。今度、南あわじ市となるが、農業や産業などますます発展するには、若者が住める活力ある街となることが重要。アイデアを出しながらまちづくりを進めていきたいと思います。

淡路地域ビジョン委員

賀集 弘貴 さん

美しい自然、伝統文化の継承、おいしい物に囲まれたすばらしい三原町。このまちの人々と出逢え、育ったのが最大の財産です。南あわじ市への期待は、住んでよかった、住み続けていたいと思つていただけ、期待できるまちとなること。自分が何をできるのか真剣に考えて、新市での住み良い地域づくりに頑張っていきたい。

前三原町長

入谷 博文 さん

昭和三十年四月、自転車をこぎ市村役場へ向かった。昭和の大合併であり、神代村吏員から三原町吏員への辞令交付に大きく胸ふくらしました。あれから既に半世紀の歴史を刻んでまいりました。昭和五十三年七月には、第五代三原町長に就きました。当時は石油バニックから開放され、高度経済成長の時代巡り合わせた果報者であった。私たちに課せられた恩返しは、次なる南あわじ市を平穩無事に発足させること。心と心が結ばれ、手に手を携え、みんなが幸せと喜びあえる人間愛、美しい緑の大地と紺碧の海や空、香り高い文化に彩られた心のふるさと南あわじを創造しようではありませんか。

南あわじを担う若い力

新成人の前途を祝福し、成人としての門出を記念する式典を通して、成人に達したことの自覚を高める目的で開催されています。三原町最後の成人式が一月三日、中央公民館で開かれ二百十二人の新成人が誕生しました。

成人式には、就職や進学などで三原町から離れて暮す方も帰省して百九十一人が出席、あでやかな晴れ着や真新しいスーツ姿の新成人たちの華やいだ雰囲気が始まりました。

中田勝久町長は「歴史の流れの中で自分と対峙し、世界を視野に入れ、自分の環境に感謝し、将来に向かってなすべき使命を感じ取ってほしい」と激励の式辞。続いて来賓を代表して、砂田泉洋議会議長と山田逸雄教育委員長からも祝辞がありました。

新成人を代表して垣本拓己さんが、「名実ともに大人になること。成長しつづけるため



中田町長と仲良くパチリ



会場は新成人とご家族の方々でいっぱい



新成人の誓い

に前を見て上を目指して歩いていきたい」と目標を、同じく榎原加奈さんが、「三原町最後の新成人として恥じることの無いよう日々成長していきたい」と誓いを語り、吉田慎太郎さんは、「今日の気持ちを胸に、視野を広げながら大人の一人としての自覚と教養を備えていきたい」と感謝の気持ちを述べました。

式典後のアトラクションでは、中学生生活を記録した「中学時代の姿」が上映され、五年前の思い出に花をさかせていました。



三原郡四町消防団合同初出式

住民に期待される新市消防団を

三原郡四町消防団による合同初出式が一月三日、西淡町津井町民グラウンドで開催されました。

初出式は、消防自動車四十二台の入場に続き、各町の消防団員ら千百人の分列行進により始まりました。原尚良郡消防協会長からは、「四町の消防団は南あわじ市消防団に組織編成され、副団長の指揮命令が極めて重大であり責任が重くなります。今後起こりうる東南海・南海地震の広域災害に対し消防団は不可欠です。日ごろの点検と訓練を重ね、安全で安心な南あわじ市、住民に期待される消防団を育てていきましよう。この世代に生きる者として自分たちの

まちを自分たちで守ることを使命・役割と
思い新市の消防団への尽力をお願いします」と訓示。続いて四町長から消防団員に対し地域防災への労苦に対し、感謝の告辞が述べられました。続いて、消防団活動に功績のあった方々に表彰状が授与されました。表彰受賞は次のとおり。(関係分、敬称略)

〔三原郡消防協会長表彰〕

中田智之(府中) 辻西伸行(幡多) 角山善博(二宮) 田村典久(八木第二) 太田利之(八木第三) 波戸崎良宜・大田周司(市第三) 木下広章・國中佳一(神代第三) 仁里佳祐(志知)

〔消防団長表彰〕

誉田康之(府中) 坂井忠明(二宮) 奥野康雄・池田貞喜(八木第一) 吸原明宏・山本章文(八木第二) 増井康孝・細川博史・山田啓史(八木第三) 小畑英樹(八木第四) 橋田英明・喜田英樹(市第三) 岡田哲治(神代第一) 前川紀也・岸野公彦・原口武久・浪花秀行(神代第二) 中尾成克・鳥井直樹・天田博文(神代第三) 柏木賢治・渡辺康志・矢野彰宏(倭文) 別所義則・仁里一郎・村上光(志知)



最後となる四町合同初出式



半世紀のあゆみ



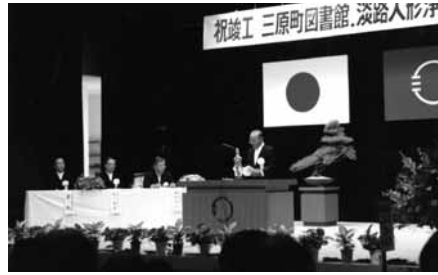
榎列小学校新校舎完成
(S56年)



温水プール「サンプール」完成(H5年)



淡路ファームパークイングランドの丘
オープン(H13年)



三原町図書館・淡路人形浄瑠璃
資料館竣工式(H2年)



おのころ神社で開催された
第2回三原町春まつり(H4年)



北海道平取町と友好町提携を調印(H6年)



倭文浄化センター
完成(H11年)



三原郡合併協定調印式で
あいさつする中田町長(H15年)



三原中学校新校舎完成(H15年)



クア施設さんゆ〜館オープン(H14年)

- ◆昭和55年(1980年)
○松くい虫被害により八木並松最後の巨樹を伐採
- ◆昭和56年(1981年)
○ゆづるはダム公園完成
○榎列、八木小学校新校舎完成
- ◆昭和57年(1982年)
○志知小学校新校舎完成
○三原町サイクリングターミナルオープン
- ◆昭和58年(1983年)
○三原町中央公民館、保健センター完成
○三原町健康広場(体育館、グラウンド)完成
- ◆昭和59年(1984年)
○第1回三原町健康展開催
○市小学校新校舎完成
○第1回三原町人形まつり開催
- ◆昭和60年(1985年)
○淡路ファームパークオープン
○大鳴門橋開通
- ◆昭和61年(1986年)
○三原町働く婦人の家オープン
- ◆昭和62年(1987年)
○三原ふるさと音頭を発表
○西オーストラリア州友好記念館が完成、コアラ
公開式典を挙げる
- ◆昭和63年(1988年)
○三原町ふれあい講座開講
- ◆平成元年(1989年)
○パソコンによる住民票の発行を開始
○町営住宅富田団地(A棟)完成
- ◆平成2年(1990年)
○三原町図書館と淡路人形浄瑠璃資料館オープン
- ◆平成3年(1991年)
○第1回三原町春まつり開催
○第1回全国人形芝居サミット開催
- ◆平成4年(1992年)
○町営住宅三条団地(鉄筋6階建)完成
○第1回三原町農業まつり行われる
- ◆平成5年(1993年)
○三原町子育て学習センター開設
○温水プール「サンプール」オープン
- ◆平成6年(1994年)
○北海道平取町と友好町提携を調印
○6代目町長(現町長)に中田勝久氏就任
- ◆平成7年(1995年)
○兵庫県南部地震(阪神淡路大震災 M7.2)発生
○町のマスコットキャラクター(サンちゃん)決定
- ◆平成8年(1996年)
○三原町企業団地「サンランド」完成
○燃えないゴミ分別収集・ステーション方式開始
- ◆平成9年(1997年)
○三原町センターパーク完成
- ◆平成10年(1998年)
○明石海峡大橋開通
○戸籍事務のコンピューター処理化開始
- ◆平成11年(1999年)
○農業集落排水処理施設「倭文浄化センター」完成
- ◆平成12年(2000年)
○介護保険事務開始
○ジャパンフローラ三原町の日開催
- ◆平成13年(2001年)
○三原郡任意合併協議会設立
○淡路ファームパークイングランドの丘オープン
○ケーブルテレビ(さんさんネット)本放送開始
- ◆平成14年(2002年)
○三原郡四町合併協議会(法定協議会)設置
○三原町クア施設「さんゆ〜館」オープン
○成相・北富士ダムが15年の歳月をかけ完成
- ◆平成15年(2003年)
○合併後の新市名が「南あわじ市」に決定
○三原郡四町合併協定調印式が挙される
- ◆平成16年(2004年)
○三原中学校本館が最新のエコスクールとして完成
○台風23号豪雨により各地で甚大な被害発生
○三原町記念誌「心画報ふるさと三原」発行

ふるさと三原

- ◆昭和30年(1955年)
 - 榎列、八木、市、神代の4か村が合併し三原町誕生
 - 初代町長に高見久平氏就任
 - 榎列小学校校舎完成
- ◆昭和31年(1956年)
 - 三条上町営住宅完成
 - 神代小学校講堂完成
- ◆昭和32年(1957年)
 - 倭文村のうち、流・委文・高の3部落を編入
 - 西淡町志知のうち、松本・佐礼尾・難波・中島下・大・上の6部落を編入
- ◆昭和33年(1958年)
 - 干ばつによる被害発生
- ◆昭和34年(1959年)
 - 2代目町長に多田藤五郎氏就任
 - 三原町役場庁舎完成
- ◆昭和35年(1960年)
 - 国道28号の改良工事はじまる
- ◆昭和36年(1961年)
 - 町内4中学校を統合し三原中学校を設立
 - 神代地区で集団赤痢(患者290名)発生
- ◆昭和37年(1962年)
 - 3代目町長に山田一二氏就任
 - 主要1級町道(4路線)に防塵処理実施
- ◆昭和38年(1963年)
 - 神代小学校プール完成
- ◆昭和39年(1964年)
 - 三原中学校新校舎完成
 - 町内の国道28号線で道路改良及び舗装工事完成
- ◆昭和40年(1965年)
 - 台風23・24号の集中豪雨で死傷者や家屋全半壊などの大被害発生
 - 町水道第1期事業(三原川より南側地域)着手
- ◆昭和41年(1966年)
 - 市小学校体育館と三原町公民館完成
 - 南淡路有料道路“うずしおライン”開通
 - 洲本～福良間を結ぶ淡路交通電車路線が廃線になる
- ◆昭和42年(1967年)
 - 神代小学校新校舎完成
 - ごみ焼却場が市小井に完成
 - ゆづりは山頂への道路「東山スカイライン」開通
- ◆昭和43年(1968年)
 - 三原中学校体育館完成
 - 山所農業構造改善事業完了
- ◆昭和44年(1969年)
 - 三原首頭発表会開催
- ◆昭和45年(1970年)
 - 米の生産調整(減反)はじまる
- ◆昭和46年(1971年)
 - 諭鶴羽ダム取付道路開通
 - 地籍調査開始
- ◆昭和47年(1972年)
 - 町内一斉河川掃除実施
 - 皇太子殿下・妃殿下ご来町
- ◆昭和48年(1973年)
 - 国道とうずしおラインを結ぶ県道(西川橋～養宜上間)開通
- ◆昭和49年(1974年)
 - 倭文農業構造改善事業完了
 - 諭鶴羽ダム竣工
 - 4代目町長に中原正夫氏就任
- ◆昭和50年(1975年)
 - 町営住宅志知団地完成
 - 町花「つつじ」、町木「黒松」制定
 - 町制施行20周年記念町民体育祭開催
- ◆昭和51年(1976年)
 - 三原大学ゆづりは学園開校
 - 淡路人形浄瑠璃が国の重要無形文化財に指定
- ◆昭和52年(1977年)
 - 第1回三原町郷土芸能祭開催
- ◆昭和53年(1978年)
 - 5代目町長に入谷博文氏就任
- ◆昭和54年(1979年)
 - 三原町野外趣味活動施設「ゆづりは憩いの広場」オープン
 - 上田浄水場完成



三原町役場庁舎完成(S34年)



国道28号道路改良工事完成(S39年青木交差点付近)



議会風景(S40年)



台風豪雨により流出した掃守中所橋(S40年)



市村駅付近を走るさよなら電車(S41年)



諭鶴羽ダム完成(S49年)



町制20周年を記念し開催された町民体育祭(S50年)



上田浄水場が完成(S54年)



町営住宅志知団地完成(S50年)

三原町記念誌を発売しました

三原町誕生から半世紀におよぶ町の歴史や文化、その役割や成果を後世に伝えるべく記念誌「心画報ふるさと三原」を発売いたしました。



編集にあたっては、編集委員をはじめ、多くの皆様のご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、集落の区長さん方には、ご家庭への配布にご協力いただきました。ありがとうございました。なお、この記念誌は町内家庭への配布のみとし、一般販売しておりません。恐れいたしますが、新市の図書館(室)でご覧ください。

編集後記

さようなら

広報みはら

閉町の式典は多くの方々に出席をいただき、厳粛かつ盛大に行われました。新市へ贈るメッセージにも感動しました。無事終了してホッとしています。

広報を担当して、三年余りで締めくくりの役目が巡ってきました。昭和三十八年の創刊以来、発行を重ねた広報みはらも今回で五百十号。最終号となりました。毎月、町の出来事や行事、お知らせ、季節の移り変わりなどを紙面でお伝えしてきました。三原町の素晴らしさを十分に伝えきれず、町民のみなさんには大変ご迷惑をかけたと思いますが、どうかお許しください。皆様のあたたかい励ましやご協力により、途切れることなく発行を続けることができました。

長い間「広報みはら」をご愛読いただきありがとうございました。さようなら「広報みはら」。

なお、新市の広報誌は、毎月一日、新聞折込によって発行します。広報みはらと同様、ご愛読ください。

(S・T)